



## 「カボチャ団子～さくらオーロラマーケット」

こひつじ幼稚園で育てたカボチャは、屋根の上まで蔓が伸び、とうとう屋根の上にもカボチャが実りました。小さいカボチャも入れると 6 個も収穫できました。子どもたちは、収穫前から「カボチャ団子っておいしいよね」と言い合い、そのように食べることを決めているようでした。収穫した折には絵を描きました。ホールに掲示した絵がそうです。

半分はお月見団子を作り、カボチャの黄色を楽しみました。「黄色くて本当にお月さまみたいだね」と言いながらいただきました。

さて間もなくして、りょうま君のおばあちゃんの育てたカボチャが届きました。緑色の大きなカボチャが 2 つ。白い大きなカボチャが 2 つです。白いカボチャの中はどのような色なのか、子どもたちは占うように想像を膨らませていました。そうして、「カボチャ団子」「マーケット」「売る」と単語が並べられ、やがてつながっていき、学級のみんなの気持ちが「さくらオーロラマーケット」の実現へと向かっていったのです。

日程が決まり、計画が進められていきました。5 回目のマーケットですから、子どもたち同士、役割分担し合い、着々と準備が進められました。りょうま君のおばあちゃんのカボチャを食べてみたいという気持ちがそうさせたように思います。思えば毎年、おばあちゃんは幼稚園に育てたカボチャをプレゼントしてくださいました。これまで、いろいろな方法でいただいていたことも子ども達の心に「楽しい、おいしいこと」として残っていたのかもしれません。大変ありがたいことです。

カボチャに包丁を入れると、「どうだ！どんなだ！なに色だ！」と大注目です。白いカボチャは皮が固くて四苦八苦している私に「がんばれ！」と声援が飛びます。幼稚園にある大きなセイロで、蒸します。蒸しあがって大きなボールでつぶすと、カボチャはホクホクで、食べる前からおいしいことがわかりました。

りょうま君は、湯気の向こうでわくわくしていました。おばあちゃんが作って育てたこと。カボチャを段ボールで送ってくれたのだと、そしてお母さんが幼稚園に運んだのだと、説明してくれました。みんなは、湯気を囲んで、黙って聞いていました。

マーケットの前日は、たんぽぽ組やつぼみ組の子どもたちにもふるまいました。「おいしかったよ。ありがとう」と感謝を伝えられ、ますますマーケットに期待が広がりました。

当日は、風邪が流行り、休んでしまった子どもが多くいましたが、たくさんのご協力をありがとうございました。予約をしてくださったり、休みのお家に届けてくださったりした方もいたと聞いています。感謝申し上げます。

銀行係りは、慎重に売上金を数え、島田銀行へ持っていく道のり（階段）に、お泊り会につかう？パーティーする？と思いをはせているのでした。

子どもたちは、このように重ねていく経験を通して、働く人の気持ち、品物を作る人の

気持ち、売る人の気持ち、銀行員の気持ちなど、様々な立場の仕事があり、思いがあることに気づいてきています。「社会はこうしてできている」ということが理解できることは、これからの生き方にも影響していくだろうと考えれば、とても豊かな経験ではないかと思うのです。買ったださった方の気持ちはどうでしょう。おいしかったでしょうか。毎度、ありがとうございます。

